

## 1. 目的

「第2次十和田市総合計画」に掲げる基本目標における各施策のデジタル化を踏まえ、デジタル技術の活用やデジタル化の推進を図り、「希望と活力あふれる十和田の実現」に向けた中長期的な目標を達成するため、DX推進ビジョンを策定します。

## 2. 基本方針 ～第2次十和田市総合計画との整合性を踏まえて～

● 第2次十和田市総合計画の8つの基本目標の課題に対応したデジタル技術を活用したデジタル化の類型

総合計画の基本目標	主な課題	デジタル化の類型
1 産業振興	地域経済の回復	● 経済活性化
2 子育て・教育	子育て情報の提供	● 情報発信
3 健康・福祉	健康勧奨・健康管理	● 健康増進
4 生涯学習・文化・スポーツ	各種申請手続きの簡略化	● 業務効率化
5 安全・安心	緊急時の情報提供	● 情報発信 ● デジタルデバインド対策
6 環境	地域課題の収集	● 情報発信 ● 業務効率化
7 都市基盤	地域課題の収集	● 情報発信 ● 業務効率化
8 自治体経営	業務の簡素化・効率化	● 窓口改善 ● 業務効率化

▶ 8つの基本目標における取組みについて、改めてデジタル化を進めていく上でのタイプ別に分類すると、以下の5つの類型に整理することができます。

● 5つのデジタル化の類型を十和田市DX推進ビジョンの基本方針として設定



## 3. 具体的な取組み例

### 1. 情報発信 LINE公式アカウント等を活用した情報発信・行政サービスの提供

▶ 広報の閲覧・公共施設の予約・電子申請機能などを搭載させて「持ち運べる市役所」として活用し、緊急時・災害時を含めた登録者への情報発信を実施します。



気になることがあればまずはアクセス  
登録者属性に合わせた情報配信  
や行政サービスの提供



### 2. 窓口改善 「おくやみ窓口」・「書かない窓口」の実現

▶ 窓口業務の改善により市民満足度の向上と職員稼働削減を目指します。

【おくやみ窓口】…死亡に伴い必要となる複数手続きをスムーズに進められるよう、希望者へのサポート体制を構築



【書かない窓口】…同一内容の繰り返し記載等を省力化・効率化することで、各種手続き所要時間を削減

### 3. 健康増進・経済活性化 ウェアラブル機器の活用・デジタルポイント事業の実施

▶ 身につけることのできるデジタル機器（ウェアラブル機器）を活用し、市民が自身の健康状態を把握することで健康増進に役立っています。

ウェアラブル機器  
歩数をコインに変換

地域のお店でご利用可能＝地域経済の活性化

▶ 各事業で提供する給付金・インセンティブを地域独自ポイントとして付与する「デジタルポイント事業」導入を検討します。



### 4. デジタルデバインド対策 スマホ教室支援事業の実施・ふるさと出前きらめき講座の開設

▶ スマホ教室支援事業を実施し、デジタル技術要支援者と支援者間のマッチングを促進・支援します。

▶ ふるさと出前きらめき講座を開設し、スマホの使い方や各種情報収集方法等に関する講座を開催します。



### 5. 業務効率化 標準準拠システムへの移行・庁内業務でのRPA・AI-OCR利用の促進

▶ 「自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画」等に基づき、対象となる業務・システムについて標準化対応を推進します。

▶ 庁内業務でのRPA・AI-OCR利用の促進については、既に開発済みのプログラムについては継続使用し、他課業務に応用できるものについては横展開し、更なる業務効率化を図ります。

## 4. アクションプラン

基本方針	事業名	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 情報発信	LINE公式アカウント活用事業	導入	運用・展開	
	YouTube公式チャンネル活用事業	導入	運用・展開	
② 窓口改善	窓口改善事業（おくやみ窓口）	導入	運用・展開	
	窓口改善事業（書かない窓口）	準備(WG)		導入
③ 健康増進・経済活性化	ウェアラブル機器活用事業	導入	運用・展開	
	デジタル地域通貨活用事業	準備(WG)	導入	運用・展開
	自治体マイナポイント活用事業	準備(WG)	導入	運用・展開
④ デジタルデバインド対策	スマホ教室支援事業	導入	運用・展開	
	ふるさと出前きらめき講座	導入	運用・展開	
⑤ 業務効率化	標準準拠システムへの移行	準備(WG)		導入
	RPA、AI-OCRの展開		運用・展開	

※ 状況によってアクションプランにない事業を実施する場合や、プランに定めた事業であっても、実施を見送る場合も考えられます。